

追悼 向井潤吉先生の足跡

民家、美しい自然の中に



《遅れる春の丘より》(長野県北安曇郡白馬村北城) 1986年

1996年1月4日[木]—3月31日[日]

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)

休館日—毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)

観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

()内は20名以上の団体料金 65歳以上の方160円

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

向井潤吉先生は、平成7年11月14日、93歳にて逝去されました。四季のうつろいと共に先生がこれまで過ごされてきた長い人生を想う時、それは描かれてきた膨大な作品のそれぞれが物語の通り、とても遙かな、そして豊かな時の重なり満ちていました。

向井先生の画家としての歩みは、京都の関西美術院での勉学の日々始まり、昭和2年(1927)から昭和5年(1930)にかけての渡欧生活では、パリを中心として創作活動が展開されました。ルーヴル美術館における21点もの古典名作の模写を通して、油彩画の技法を深く学び、西洋美術の本質と対峙されたわけです。そして数え切れない紙数を費やした裸婦のクロッキーでは、対象を短時間に的確に捉える習練を重ね、画家としての地歩をかためました。

戦後間もなく制作され始めた“民家作品”は、その後50年間のうちに3,000点にも及ぶと推測されます。その壮大な画業を回顧してみますと、向井先生は民家を単なる“建築”としてとらえているのではないことに気づきます。つまり民家は、それぞれが立地する土地の自然環境や風土によって、これに相応しい形状や機能がもたらされながら、人々の生活のよりどころとなり、さらにまた逆に美しい自然の一部ともなって、人が自然と共生するために重要な役割を果たしているということが、作品を通して的確に示されています。

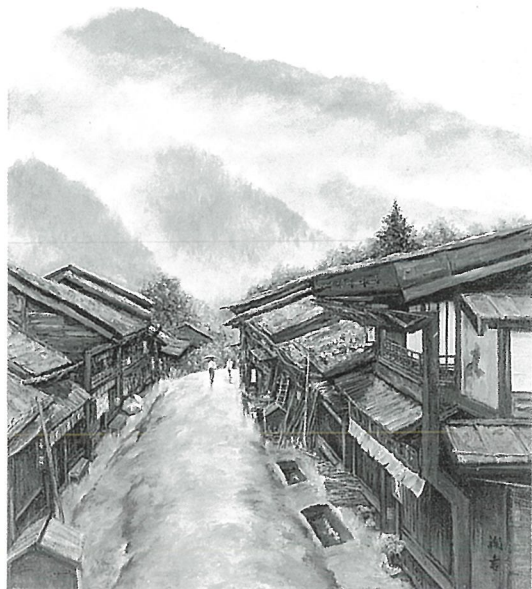
一枚一枚の“民家作品”の画面には、民家とともにそれと同じだけの重みと意味をもった、民家をとりかこむ自然の風景が描かれているのです。

モチーフが“民家”に絞られていることから、平凡にも思われ、また叙情的とも見られがちですが、それぞれの作品のひとつひとつは、画家・向井潤吉先生がモチーフとなる民家と、これをとりまく自然環境、そしてそこに示されている日本人の営みのすばらしさを深く観察し、そこから得た日本人の民族的・歴史的な文化遺産という確信に基づいて、つねに自覚的に創作を重ねてきた成果であると言えます。

このたびの展覧会では、当館所蔵の作品によって、70年にわたる向井潤吉先生の創作活動の足跡を回顧し、そのご遺徳を偲びたいと思います。



《田麦侯にて(山形県東田川郡朝日村田麦侯)》1963年



《微雨(長野県木曾郡南木曾町妻籠)》1974年



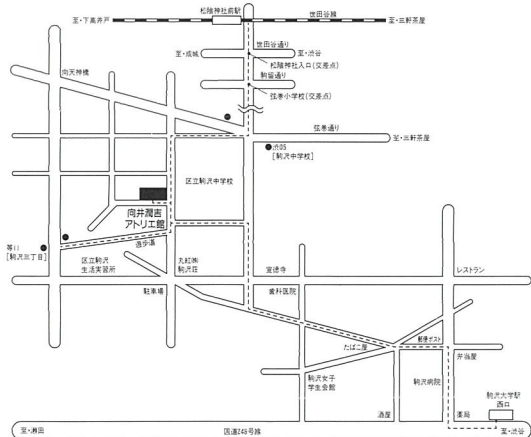
《泉(アングルの模写)》1929年



《漂人》1946年



《不詳(農作業・茨城県)》1955年頃



●最寄り交通機関のご案内

- 東急新玉川線【駒沢大学】駅西口 下車/徒歩10分
- 東急世田谷線【松陰神社前】駅 下車/徒歩17分
- 東急バス(渋05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス(等11) 祖師谷折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス(渋11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分
- 東急バス(渋13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分



《自画像》1919年

民家、
美しい自然の中に

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館
〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1
TEL.03-5450-9581